

リリムジカ=心に響く音楽。読むだけで音楽レクと音楽療法の知識が身につく記事を毎月無料でお届けしています。

同じ場所に長時間居ることが難しい相田さん

特別養護老人ホームにお住まいの相田さん（仮名・80代女性）は、流れる音楽に惹かれて時々プログラムを覗きにいられたのがきっかけで、定期的に参加されるようになりました。相田さんには認知症があり、同じ場所に長い時間とどまることが苦手です。ある日のプログラム実施中、相田さんは何度も席を立とうとされました。プログラムに同席している職員さんやボランティアさんは、その都度「相田さん、もう少し音楽が続きますよ」等声をかけました。相田さんはどこか落ち着かない表情をされていました。

ファシリテーターは少し不安に思いました。「相田さんは私たちが思うほど音楽が好きではないのだろうか。それとも、プログラムの場に相田さんが落ち着かない要因が何かあるのだろうか。」職員さんに考えを伝えると「音楽はお好きだと思います。その日の体調などによっても落ち着かれないことがあるので、原因を特定するのは難しそうです。でも、また相田さんが立ちあがったらご本人の気の済むまで歩いていただくのも良いかもしれません」と提案してくださいました。

別の日のプログラムで、相田さんはまた席を立とうとされました。職員さんは相田さんと一緒に部屋の中を少し歩きました。頃合いを見て「相田さん、ここどうぞ」と声をかけるとスッと席に着かれました。その後プログラムが終わるまで席を立つことはありませんでした。今後も相田さんが立ち上がろうとしたときは、職員さんが付き添い自由に歩いていただくことになりました。

読者からのQ&Aコーナー

歌詞指しのコツはありますか？①

どこを歌っているかをわかりやすくするため、歌う際に歌詞指しをすることがあります。歌詞指しは耳の遠い方や認知症の方がいるグループで有効です。では、どのように行くと効果的なのでしょう。【コツその1】なるべく先端が目立つものを使う。ときどき先端が小さい指し棒を使う方がいますが、これはあまり目立ちません。先端の色も赤など目立つ色が良いです。先端が白い指し棒も販売されていますが、模造紙の白と混ざって見にくくなります。手ごろなものがないときは、手で示すだけでも伝わります。次号は歌詞指しをする際のポジションについてご紹介します。

うさ子の奮闘記 第14話
「幸せなら手をたたこう」
作：うめ子

